

事業活動実績報告書

施 設 名	葛飾若草幼稚園
教 育 理 念	・子ども一人ひとりの発達段階に即した保育を行う ・体験学習を通して豊かな心情や知的好奇心を高める

1 事業名	泥だんごを作ろう！
2 実施期間	令和7年10月6日 ～ 令和8年 3月10日

3	取組概要	（取組日） 令和7年 10月6日 ～ 令和8年3月10日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 埼玉県吉川市にある幼稚園の農園の土を幼稚園まで運び、その土と園庭の砂を利用して園児が泥だんご作りを経験する。繰り返し砂をかけ、土をかけ、固く握り固めていく作業を行う。固まってきたら、布で優しく磨き上げていく。完成したものは、入れ物に入れて3月に持ち帰る。	
		（取組日） 令和7年 10月6日 ～ 令和8年3月10日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 同 上	
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 同 上	
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 完成した泥団子	

効果検証報告書(新規事業用)

施設名	葛飾若草幼稚園
教育理念	・子ども一人ひとりの発達段階に即した保育を行う ・体験学習を通して豊かな心情や知的好奇心を高める

計画時

事業の区分(5領域)		幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)									
		健康	○	人間関係	○	環境	○	言葉		表現	◎
1 事業名		新規事業			○	継続事業				1	年目
		泥だんごを作ろう！									
2 事業概要		吉川の農園の畑の土を使って、泥だんご作りをする									
3 対象学級(クラス名) 対象人数		3学年(年長組・年中組・年少組)							163		名
4 実施体制		埼玉県吉川市にある幼稚園の農園の土を幼稚園まで運び、その土を利用して園児がピカピカの泥だんご作りを行う。 ・実施する場所:幼稚園園庭 ・使用する器具・道具など:砂をふるう器具、泥だんごを磨く用の布、泥だんごを保管するトレー ・専門的な知見:泥だんご作りの研修会に参加したことのある職員が率先して作り方を園児に教えていく。 ・環境作り:園庭に毎日繰り返し作れるように泥だんご作りのスペースを作る。									
事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) ・吉川の畑の土を使うことで、丸めた後に固まりやすく壊れることなく継続して作り続けることができていた。 ・土に触れることで、情緒が安定し、集中して取り組む姿が多く見られた。 ・毎日繰り返し泥だんご作りを行えることで、自分が作った物への愛着がわき、大事に扱うことができるようになっていた。 (改善点) ・泥だんご作りのスペースをもう少し広くできるように調整する。									
計画時	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等									
		・5月の田植えの体験又は、6月の玉ねぎ収穫の頃に吉川の畑の土を園庭に運ぶ。 園庭に泥だんご作りスペースを作り、自由に作れるように環境を整える。 ・泥だんご作りは、丁寧に時間をかけて作成するため、園児によって異なるが、おおよそ1個作るのに1～2ヶ月位の期間を予定している。									
		(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点									
事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) ・各個人が作りたいタイミングで作業ができるように環境を整えることで、集中してだんご作りに励む姿が見られた。 ・作り終わったものは、年度末に容器に入れてお持ち帰りし、家でも継続できるようになった。 (改善点) ・泥だんご作りのスペースをもう少し多めに取れるように考慮する。									

計画時	事業を通じて期待される子どもたちの姿や効果等	ただの泥だんごではなく、何度も握っては白砂をかけ、布で磨きをかけていく作業を繰り返すことで自分だけの特別な泥だんごという意識が芽生え、愛着を持って取り組む。 土に触れることで、気持ちが落ち着き、集中して作業をこなすことができるようになる。
事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) ・始めは土に触れるのを嫌がっていた子も土が固まり、団子状になってくると面白くなってきて、継続して集中して取り組む姿が見られた。集中力アップに繋がる。 ・異年齢児の関わりが増え、作り方を教え合ったり、競い合う姿も見られ、交流が増えた。 (改善点) ・園児が作りたいタイミングで作れるようなスペースを確保すること。
	7 効果検証総括	取組を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・泥だんご作りを行ってみて、当初は土に触れることに抵抗があった園児も、徐々にだんご状に土が固まってくると、愛着がわき、繰り返し作業する姿が見られるようになった。 ・手を動かして物を作る作業の面白さ、土の感触などを経験することができるようになり、アレンジして土遊びを楽しむ姿も見られるようになった。 ・丁寧に時間をかけて作成するため、おおよそ1個作るのに1～2ヶ月位かかるが、集中して行えるようになった。 ・泥団子が壊れてしまっても諦めずにまた作り直す姿が見られるようになり、どうしたら良いのかを自分で考えて作業している姿も見られるようになった。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5つの領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。